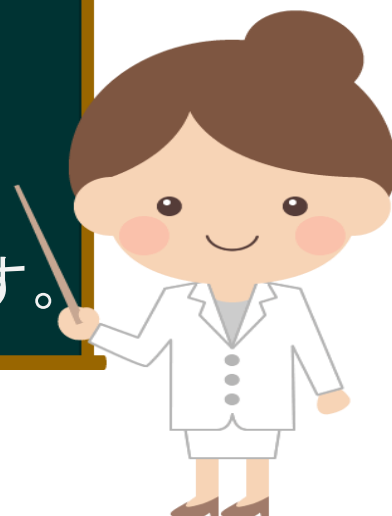


今回は、

「フェムテック」

のお話です。



フェムテックという言葉がありますが、
ご存じですか？これは、
Female(女性)×Technology(技術)
を併せた造語です。

女性のライフステージにおける健康課題を、テクノロジーで解決するサービスやプロダクト全体を示す内容です。

2013 年頃にドイツ発の月経管理アプリ「Clue」の代表者が、自身の運営するサービスを表す言葉として用いたことが最初だと言われています。

フェムテックは 8 分野(又は 6 分野)に分かれていると言われています。
どのような分野かと言いますと、

- ① セクシャル系ウェルネス
 - ② 月経管理
 - ③ プレ更年期
 - ④ 妊娠・不妊支援
 - ⑤ 妊娠期のケア
 - ⑥ 産後のケア
 - ⑦ 更年期のケア
 - ⑧ 婦人科系疾患の診断治療
- となります。

なぜ今、フェムテックが注目されているご存じでしょうか。

SDGs(持続可能な開発目標)の目標5「ジェンダー平等を実現しよう」とか、目標3の「全てのひとに健康と福祉を」にもかかわってきます。



更に、少子高齢化の日本において、ほとんどの国内企業が主要な課題としてマンパワー不足を挙げている一方、円安の影響もあり、外国人労働者や技能実習生の日本離れが加速している状況でもあります。

そのような社会環境の中、**女性の社会進出、専業主婦から共稼ぎと意識の変化、30 年間変わらぬ給与体系**など、

フェムテックが注目される背景として様々な要因があります。

女性はライフサイクルに伴い、**心身ともに男**

性より変化の影響を受けやすい性別となっています。

月経開始、思春期による心身の変化、妊娠・出産に伴うキャリアの中断、産後の社会復帰とキャリアパス、男性と同じように昇進、異動、転勤の体験。

プライベートでは、結婚、離婚、介護などのライフイベントを体験される方も少なくありません。

人口の半分は女性です。このため、女性が働きやすい職場づくりをすることで、「多様な働き方」にも繋がるというわけです。



日本は高度成長時代まで「良妻賢母」が美德とされていたようです。しかし、現代社会においては「産めよ、増やせよ、働いて、介護して」と、更に様々な役割も求められるようになりました。

女性の健康課題の一つに月経のケアが挙げられていたと思いますが、月経にまつわる色々な症状による仕事のパフォーマンス低下は、年間約4900億円ともいわれています。

そして女性の健康課題は他にも合わせると約6300億円……途方もない数字なのでピンと来にくいと思いますが、その多くが月経関連とされています。

女性の多くは月経開始から閉経迄、人生の約半分の時間を月経や閉経にまつわる期間を経ていると言っても過言ではありません。



また女性の健康課題をテクノロジーで解決することで、**その経済効果は約 2 兆円**という規模も推計されています。

女性の健康課題に関して男性が関係ないわけではありません。

パートナーの健康課題もありますし、職場においても、女性が働く職場が増えてきている状況でもあります。

女性の健康課題を解決することは、現代社会において男性にもかかわる事案となることが理解できると思います。



フェムテック…この意味を言えなくても女性の健康課題解決に関係することだなと思って頂きたく、今月のテーマとさせて頂きました。

次回は何でしょう？
楽しみに！

